

大判プリンタ 新製品が多数

サイン & ディスプレイショウ

広告・看板業界の見本展「サイン & ディスプレイショウ」が9月1～3日、有明の東京ビッグサイトで開かれた。主催は、東京屋外広告美術協同組合。大判インクジェットプリンタや同出力対応メディアなどの出展が多くあった。一部を紹介する。

武藤工業は大判インクジェットプリンタ「ValueJet VJ-1638」を出展。プリントヘッドを横に2つ千鳥状に並べたことでインクの乾燥性・定着性を向上し、最大48m²/時の高速出力を可能にした。また省スペース化を図り、インクタンクを縦横両方の設置に対応。サブタンク方式で縦横どちらの設置でもインク圧は変わらない。

ローランド・ディー・ジーは、UV-LEDインクジェットプリン

タ「VersaUV LEJ-640」を出展。CMYKに加えて透明インクと白インクにも対応し、ウィンドウディスプレイや展示什器、パッケージなどの多彩な表現を可能にする。最大13mm厚のメディアに対応。安定出力のための機能も搭載した。

セイコーアイ・インフォテックは、ロールとカットの両メディア対応大判インクジェットプリンタの新製品「W-64s」を紹介。同製品用に、環境配慮を意識したインクも提案した。海外で普及している環境基準「HAPs」に指定された有害物質をインクの溶剤と顔料から排除したもので、低臭気、リユース式。HAPsへの対応は、欧米の大手企業から印刷を受注するさいに重要だという。

セーレンは、のぼりやカーペット、カーテンなどに向くインクジェット出力用布メディア「スムーザ」を出展。新開発した熱融着糸の基布を特殊加工し、形態安定性や耐久性を向上した。基布にインクがしみ込まず、インクを高濃度化できる。ヒートカット不要で出力直後に断裁でき、裏紙も使用しないので剥がす手間がない。水性・

溶剤・ラテックスインクに対応。

ベルアドワイズは、屋外印刷物向けインクジェットプリンタの純正インクと互換性がある溶剤インク「jetinkシリーズ」を提案した。純正インクの6割の価格で品質もあまり変わらず、純正インクとの併用も可能。すでに世界80カ国で使用されているという。

桜井は室内装飾用のインクジェット出力対応メディアやデジタルサイネージを紹介。中でも、音源反射型のスピーカーを使った仕掛けの提案が注目を集めた。これは天井に設置したスピーカーから出る音声が、そのスピーカー幅から拡散せずにまっすぐ進み、スピーカーの真下でのみ音が聞こえるもの。音声が聞こえる場所に日印を印刷したカーペットなどを設置することで、一風変わった店舗演出ができる。(編集部S)



富士フイルムグラフィックシステムズは、高画質・出力速度の向上を図った大判インクジェットプリンタ「Luxel Jet UV360GTW」を出展した



インサイトは、無機ELを使った看板を紹介した。点灯する箇所やタイミングを任意で設定でき、動きのある表現が可能



アスカネットは、装置のガラス板上の空中に映像が浮いて見えるデジタルサイネージを出展。真正面から映像にタッチする(空中を突つつく)と映像が反応し画面が切り替わる